

平成28年度 総括評価表

徳島県立城ノ内中学校

	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
リーディングハイスクール事業の推進① 高一貫教育の推進	(全校レベル) 中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立てる。 (下位組織レベル) 中学生と高校生の良好な関係構築。 中高合同での月例運営委員会や職員会議の活性化。PTA活動の充実。	評価指標 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が70%以上 「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が70%以上 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が70%以上 「中学生は高校生を模範として、よりよい学校生活を送ろうとしている。」と答えた生徒・保護者・教職員が50%以上。 「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が50%以上。 活動計画 ①中高職員合同の運営委員会を月1回以上、PTA役員会を年4回以上開催する。 ②城ノ内祭等の行事を中高合同で行う。 ③部活動(一部)で中高合同の練習・活動を行う。	評価指標による達成度 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒87%(-3)・保護者91%(+1)。 「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒95%(-2)・保護者97%(+1)。 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者89%(±0)・教職員95%(±0)。 「中学生は高校生を模範として、よりよい生活を送ろうとしている」と答えた生徒57%(-4)、保護者77%(±0)、教職員76%(+16) 「中高生の関係は良好である」と答えた生徒69%(-12) 活動計画の実施状況 ①中高合同の運営委員会を毎月1回実施し、各課題について協議した。(年12回開催)	B すべての項目で評価指標は上回っている。概ね良好な状況にあるが、「高校生を模範としている」という生徒のポイントが上がらず、「中高生の関係が良好」で下がるなど、7限授業や行事の精選が進む中で、中高生がともに過ごす時間がやや減少している影響も見える。	6年間を通じた進路の考え方や学習の方法について、受験を経験した高校生が中学生に直接教えるような機会をつくるべきである。 ①高校生の「何を模範とするか」について、年度当初に中高職員で更に共通理解を図り、行事等での活躍はもちろん、休み時間や清掃時など普段の生活の中で中学生に見える形で示せるように、中高で取り組む。 ②更に中高連携を意識した取組ができるように、担当の校務分掌において、協議の時間を設定し、発段階に応じて役割分担について共通理解を徹底する。
リーディングハイスクール事業の推進② 確かな学力と進路観の育成	(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。 (下位組織レベル) 研究授業・授業研究会の実施。各種検定への参加。 外部講師を活用した授業の実施。	評価指標 「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者・教職員が80%以上。 「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒・保護者が80%以上。 外部講師を活用した授業を、年間5回以上実施。 活動計画 ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③各種検定を積極的に実施する。 ④外部講師を活用した授業を実施する。	評価指標による達成度 「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒89%(±0)、保護者86%(±0)、教職員90%(-5) 「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者84%(-9)、教職員95%(±0) 「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒77%(-5)、保護者89%(-4) 外部講師を活用した授業年間14回 活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年11回実施した。 ②授業評価を、年間2回実施した。 ③漢字検定(1回)、数学検定(2回)、英語検定(2回)を実施し、ほぼ全員がいずれかの検定を受検した。 ④総合的な学習の時間、体育科、音楽科、社会科、英語科などで外部講師を活用した授業を実施した。	B すべての項目で、評価指標を大きく上回っている。良好な評価であり、リーディングハイスクールの指定を受けて、学力伸長について、全教職員、生徒がさらに意欲的に取組を進めていることが伺える。また、各種検定、外部講師を活用した取組も成果を挙げている。しかしながら、生徒、保護者教員評価の評価に差がみられる項目もあり、さらに「個」に応じた指導体制が求められている。 中高一貫で、どうしても中3・高1中だるみになりがちなので中高一家のメリットを生かした対策、働きかけをして欲しい。	①教員間の研究授業、相互参観などの取組や定期的な協議・研修会の開催により、目標の共有、生徒の学力を伸ばす授業や教材について、教科担任間の連携を密にする。 ②授業時間を確保しつつ、各検定の受検を促し、中学卒業時までの各検定取得目標全員達成に、放課後の補習やコールシステムなども活用して取り組む。 ③経費の確保を工夫し、夏期講座も含め、外部講師の活用を更に進める。

<p>人権教育の推進</p>	<p>(全校レベル) すべての教育活動で人権教育の推進を図る。</p> <p>(下位組織レベル) 学級活動や学校行事の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上</p> <p>「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上</p> <p>活動計画</p> <p>①人権問題についての研究授業、事前研究会を実施する。</p> <p>②人権意見発表会を実施する。</p> <p>③人権に関する講演会等を実施する。</p> <p>④職員研修を充実する。</p> <p>⑤学校生活に関するアンケート調査を年2回実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒89%(+3)、保護者91%(+6)、教職員86%(±0)</p> <p>「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒80%(+1)、保護者87%(+2)、教職員67%(−12)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①各学年で研究授業を実施し、事前・事後の研究会を実施した。</p> <p>②人権教育意見発表会を実施した。</p> <p>③1年生・2年生・3年生ともに、外部から講師を招き人権問題講演会を実施した。</p> <p>④中高合同の職員研修会を2回、地域研修会を1回実施した。</p> <p>⑤学校生活での悩み等について、アンケート調査を学期に1回実施し、生徒理解やいじめ等の問題の早期発見に努めた。</p>	<p>B</p> <p>すべての項目で評価指標を上回っている。概ね良好な評価で、「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」の項目では、わずかではあるが生徒、保護者、教職員のすべてで評価が上がった。しかしながら、他のアンケートでは自己肯定感の低い生徒が学年が上がるにつれて多くなる傾向が見られる。また、メールやSNSを介しての人権侵害等にも注意が必要な状況にある。</p>	<p>生徒からの主体的に出てきた課題意識をテーマとして取組を進めるべきである。</p> <p>3年・6年がそれぞれに上級生として率先垂範すれば、下級生も従っていくので、重点的な指導をしたらよいのではないか。</p>	<p>①道徳、人権学習の時間を担保し、年間計画に沿って、人権教育を含む、豊かな心を育てる教育実践を進める。</p> <p>②すべての教育活動の中で、学年ごとに設定している取組キーワードをもとに、3年間の変容を意識した継続的な学習に繋げる。</p> <p>③引き続き毎学期アンケートや生徒の観察に努め、いじめやトラブルの早期発見と対応に取り組む。</p>
<p>基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養</p>	<p>(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>また、いじめを絶対許さない。</p> <p>(下位組織レベル) 「挨拶の励行」の徹底。</p> <p>「城ノ内生としての自覚ある行動」の推進。</p> <p>「時間厳守」の徹底。</p> <p>「服装頭髪」指導の徹底。</p> <p>積極的ないじめ認知と対応。</p>	<p>評価指標</p> <p>「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が70%以上。</p> <p>「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>「城ノ内生としての自覚を持った行動ができています」と答えた生徒・教職員が70%以上。</p> <p>「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>「服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①あいさつ運動の実施。</p> <p>②校内外でのマナーの指導をする。</p> <p>③始業前着席の励行。</p> <p>④服装頭髪検査を定期的実施する。</p> <p>⑤学校生活に関するアンケート(いじめを含む)を年2回実施する。</p> <p>⑥家庭との連携を図る。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者84%(+3)、教職員81%(−17)</p> <p>「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒84%(+8)、保護者90%(+2)、教職員57%(−10)</p> <p>「城ノ内生としての自覚を持った行動ができています」と答えた生徒81%(+1)、教職員86%(−2)</p> <p>「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒87%(+6)、保護者97%(+4)、教職員95%(−3)</p> <p>「服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒93%(+12)・保護者98%(+4)・教職員100%(+12)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①毎朝の教職員、生徒会役員・生活委員及び生徒有志によるあいさつ運動を実施した。</p> <p>②毎朝交通委員による駐輪場の整理整頓を実施した。各行事を通じて社会マナーについて話をした。</p> <p>③教員が授業場所に始業前に行き、生活委員が2分前着席を呼びかけた。</p> <p>④日常的に、また学年等の集会時の服装頭髪について指導した。</p> <p>⑤アンケート調査を学期に1回実施し、生徒理解やいじめ等の問題の早期発見に努めた。</p>	<p>B</p> <p>「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒、保護者、教員の割合に差があり、教員は評価指標を下回っている。どこでも、だれにでも気持ちのよいあいさつすることに教員はまだまだ不十分ととらえていて、生徒の認識と差がある。また、「服装などについて校則が守られている」と答えた教員の割合が下がっており、今年度常時服装等で指導が必要な生徒が一部いた実態が反映しているようだ。</p>	<p>そうじの仕方の指導や、その結果についての生徒へのフィードバックが大切である。</p> <p>あいさつなどは家庭で教育の役割が大きい。自発的にできるように、その意義や大切さについてもっと情報提供もできるのではないか。</p> <p>スマホの普及で対面のコミュニケーションが減っているようであり、新しい対応が必要である。</p>	<p>①あいさつの大切さについてあらゆる機会を捉えて指導する。</p> <p>②服装・頭髪等の指導について、全教員が共通認識を持って、徹底してあたる。特に、生徒指導課を中心として、学年間での連携をとった指導ができるようにする。</p> <p>③規律ある行動や時間の遵守(授業開始2分前着席など)について、代議委員会、生活委員会、交通委員会など生徒の自主的な活動がより活性化するように、教員自身が率先し、支援・指導していく。</p>

<p>災害を迎え撃つ 防災教育の推進</p>	<p>(全校レベル) 防災・安全教育を徹底し、災害に備えるとともに、事故防止に努める。</p> <p>(下位組織レベル) 防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。 交通ルールや交通マナーの遵守に向けての取組推進。</p>	<p>評価指標 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が70%以上。</p> <p>活動計画 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。 ②毎月1回交通マナーアップ運動を実施する。 ③交通安全教室を実施し、安全教育の徹底を図る。</p>	<p>評価指標による達成度 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒77%(-6)、保護者85%(-3)、教職員85%(-6)</p> <p>「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒75%(-4)、教職員76%(+14)</p> <p>活動計画の実施状況 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を2回実施し、Jアラートによる初期退避行動訓練を2回実施した。 ②学校安全の日にあわせて交通マナーアップ運動を行った。また、PTA校外指導部が朝の立哨指導を実施した。 ③交通安全教室を実施した。</p>	<p>B</p> <p>すべての項目で評価指標は上回っているが、「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒と教員の差が大きい。教員の肯定的な答えもかなり増え、改善が進んでいることがうかがえるが、並進等で注意を受けることや、車との接触なども多い実態があり、引き続き指導が必要である。</p>	<p>学校の立地も考えて、しっかりと取り組んでほしい。</p> <p>①防災意識の高揚のため、職員の研修をするとともに、災害時の具体的な対応について、避難方法、経路などを確認し迅速で確実な行動ができるように様々な事態を想定した避難訓練計画し、実施する。 ②交通ルールの遵守について継続して、粘り強く取り組むとともに、特に違反の多い場所や危険な場所について、定期的な立哨指導、巡回を行う。</p>
<p>環境教育の推進</p>	<p>(全校レベル) 環境教育への取組を推進し、学習の場にふさわしい環境を整える。</p> <p>(下位組織レベル) 清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている。 ゴミの分別や節電・節水に取り組む。</p>	<p>評価指標 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が80%以上。</p> <p>活動計画 ①毎日の清掃活動を充実させる。□ ②日常的に節電、節水に努める。 ③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動に、年3回以上取り組む</p>	<p>評価指標による達成度 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒85%(+3)、教職員95%(+7)</p> <p>【ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒78%(-1)・教職員91%(+3)</p> <p>活動計画の実施状況 ①毎日の清掃時の生徒管理を適切に行った。 ③吉野川堤防清掃活動を、中高合同で3回実施他した。(7・10・12月)</p>	<p>B</p> <p>すべての項目で評価指標を上回っている。清掃活動や環境保全に熱心に取り組んでいることが伺える。</p>	<p>電気使用量や使用水量の数値を明示するなど具体的に現状と取組の効果をフィードバックしながら推進する必要がある。 漫然とした取組ではなく、チェックや評価をきちんとすることが大切である。 快適さに慣れ過ぎている面のあるのではないか。</p> <p>①ゴミの分別、節電、節水、リサイクル活動を進める。 ②毎日の清掃活動に自主的に、積極的に取り組めるように、引き続き指導監督する。</p>
<p>主権者教育の充実</p>	<p>(全校レベル) 社会科の授業と学級活動を中心として、主権者教育の推進を図る。</p> <p>(下位組織レベル) 関連授業、学級活動や学校行事の充実。</p>	<p>評価指標 「社会科の授業や関連の行事等で政治や選挙制度に対する理解と参加意識が高まった」と答えた生徒・教職員が70%以上。</p> <p>活動計画 ①主権者教育の授業を公民科やホームルーム活動で実施する。 ②主権者教育講演会を実施する。 ③職員研修を充実する。</p>	<p>評価指標による達成度 「社会科の授業や関連の行事等で政治や選挙制度に対する理解と参加意識が高まった」と答えた生徒64%3)、教職員66%</p> <p>活動計画の実施状況 ①全学年において単元のまとめ毎に生徒自身が様々な立場に立ち価値判断を行う授業を設定し主権者としての基礎的判断能力の育成を行った。</p>	<p>C</p> <p>今年度新たに加えられた項目で、手探り状態で進められている状況でもあり、評価指標は下回っている。</p>	<p>公民の授業を中心に、公平性を保って実施してほしい。</p> <p>①生徒が行った意志決定事項を、実社会に生かすことのできる場を設定する。</p>

<p>特別活動の活性化</p>	<p>(全校レベル) 学校行事、部活動等の特別活動を充実させ、学校全体を活性化させる。</p> <p>(下位組織レベル) 学校行事の内容の充実を図る。部活動を活発にする。生徒会・専門委員会活動の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>「生徒会・専門委員会は活発に活動している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①学校行事の内容を充実させる。 ②部活動を活性化させる。 ③生徒会・専門委員会活動を活性化させる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒93%(±0)、保護者96%(−1)、教職員86%(−9)</p> <p>「部活動は活発である」と答えた生徒88%(+1)、保護者85%(+3)、教職員91%(+13)</p> <p>「生徒会・専門委員会活動は活発に活動している」と答えた生徒87%(+10)、保護者89%(+14)、教職員85%(+9)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>②部活動加入率は1年 91%、2年 88%、3年 90%。(4月末現在)</p> <p>③生徒会執行部が中心となり、各専門委員会がそれぞれの役割を計画的に実施し、充実した活動を行った。</p>	<p>A</p> <p>全ての指標で目標を上回っている。特色ある学校行事、部活動、生徒会活動等に熱心に取り組んでいる。特に、部活については、週33時間授業で活動時間に制限がある中、効率よく実施された。</p>	<p>部活動との両立にはメリハリが大切である。長期のオフをとることを考えても良いのではないか。</p> <p>短時間で練習の質を上げるために、理論的に思い切った方策の転換をすることも必要である。</p>	<p>①各行事について、実施方法、内容等について見直しを図り、より効率的・効果的に実施できるようにする。</p> <p>②行事の際の生徒の自主的な参画について、高校とも連携し、生徒会、委員会活動を中心に更に強く推進する。</p> <p>③部活動の時間が減る中で、集中して練習に取り組めるように放課後の時間、また練習場所について調整、工夫をする。</p>
<p>開かれた学校づくりと郷土愛を育む教育の推進</p>	<p>(全校レベル) ホームページの充実や学校公開の日を実施する。</p> <p>地域資源を生かした多様な体験・交流活動を行う。</p> <p>(下位組織レベル) ホームページの更新回数を増やす。</p> <p>「学校公開の日」の実施。城ノ内祭の公開。地域に根ざした体験活動・行事の実施。</p>	<p>評価指標</p> <p>「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者・教職員が70%以上</p> <p>ホームページの更新に全ての教員が関わり、少なくとも週に1度は更新する。</p> <p>「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が70%以上。</p> <p>「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①ホームページを随時更新する。 ②「学校公開の日」を実施する。 ③文化祭を公開する。 ④阿波踊りや第九等地域に根ざした多彩な活動を実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>「ホームページは本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた保護者88%(−1)、教職員95%(+3)</p> <p>多くの教員がホームページを更新し、学校全体として、平均週2回以上程度は更新することができた。</p> <p>「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者97%(+2)、教職員100%(±0)</p> <p>「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立つ」と答えた生徒90%(−4)、保護者97%(+2)、教職員100%(+5)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①ホームページへの年間アクセス数は563,367回(昨年比4%減)、総アクセス数は2,805,671回(～2017.2.8)</p> <p>②学校公開の日への参加者550(555)名。 ③文化祭を公開し、2056(1689)名が来校した。 ④阿波踊りの実習を行い、第九の合唱にも参加した。</p>	<p>A</p> <p>全ての項目で評価指標を大きく上回っている。保護者や地域の高い関心と支援のおかげで、開かれた学校作りが推進されている。特に、ホームページについては、行事等即日アップやお知らせのHPでの周知について理解協力ができているようである。しかしながら、文化祭、学校公開については、駐車場が用意できなかったことが、来校者数にやや影響しているように思われる。</p>	<p>地域に根ざす人材作りは社会・企業人から見ても非常に大切である。本校の伝統的な地域資源を活用した体験的な活動は、郷土愛を育むのに非常に有効であると考えるので継続してほしい。</p>	<p>①ホームページの更新について、引き続き、迅速かつ内容充実に努める。特に、各教科の授業の様子や日常的な教育活動について、全教職員が意識して取り組む。</p> <p>②学校公開の日や文化祭等の機会を捉え、来校いただいた方々に本校の魅力を十分伝えられるように、アンケート等の意見を活用し、内容を見直し改善を図る。駐車場等どうしてもご理解いただかなければいけない点について、更にご協力をお願いする。</p>